

【メディア掲載】山陽新聞に取り上げられました！

山陽新聞/2021 年 12 月 8 日朝刊に「日生 3000 トンプレス機」の記事が掲載されました。

山 陽 新 聞

第3種郵便物認可

大手耐火物メーカーのヨータイ（大阪）は来夏までに、自社最大となる3千トプレス機を日生工場（備前市日生町日生）に、1500トプレス機を吉永工場（同市吉永町南方）にそれぞれ導入する。大型の耐火れんがの受注に対応するとともに、幅広いサイズのれんがを1台で成形できるようにして生産効率を高める。総投資額は約9億5千万円。（新居田崇）

現在の日生工場のプレス機。来年5月には3000トプレス機を導入する



来夏までにヨータイ

耐火れんがは、鉄やメーカーの溶融炉に用セメントを造る炉の内 いる大型れんが（幅1張り材に使われる。プ び、奥行き40センチ、高さレス機は鉋物など粉末60センチ）のほか、海外から受注予定の大型れんがなどを製造。現在その能力によって加工は既存のプレス機で1できる製品のサイズが 個ずつ成形している小型れんがを一度に2 個成形することもできる。生産性がアップする3千トプレス機は、油圧式で、来年5月の稼働を目指す。ガラス 吉永工場に1台入れ

日生に3000トプレス機

る油圧式の1500トプレス機は、来年8月の設置予定。同工場では最大の能力を持ち、既存の630トプレス機で1個ずつ成形しているれんがを一度に2個処理できる。セメントの焼成炉向けれんがなどを造る。

同社は昨夏、中国遼寧省の子会社で一部の耐火れんがの生産を取りやめた。現地の競合メーカーのレベル向上で品質面での優位性が薄まったほか、中国政府の環境規制への対応が不透明なためで、一部製品を日生工場に移す狙いもあってプレス機を増強する。

田口三男社長は「今後3年間で積極的に設備投資を行う。合理化を進め、労働時間の短縮にもつなげたい」と話している。

ヨータイは東証1部上場で業界3位。国内には4工場があり、日生工場は主に塩基性の耐火物を、吉永工場は粘土質れんがなどを手掛ける。両工場で全社売上高235億円（2021年3月期）の約6割を稼ぐ。

大型耐火物対応、生産効率化

吉永工場には1500トプレス機